

2025年度

## 学習指導計画表

京都長尾谷高等学校

〔科目名：音楽I〕〔単位数：2単位〕〔使用教科書：高校生の音楽①〕

〔使用副読本：Misic Navigation〕

学 期	授業回	項目	教科書		副読本
			内 容	ページ	
前 期	1	日本の伝統音楽、民謡	日本の伝統音楽の特徴を知り	p60～67	p42,43
		楽典（音名）	鑑賞を通して日本文化を学ぶ。	p140～143,150	p65～67
	2	歌唱、楽典（記譜法、写譜）	「校歌」の歌唱。記譜の方法を学ぶ。	p150	p64,65,ナビ
		器楽実習	アルトリコーダー、ハンドベル他	教員が選曲	
	3	歌唱（日本歌曲）	荒城の月	p92,93	
		楽典（楽語）	楽語を理解する。	p153	p97～100
	4	楽典（音階、音価）	音階と調、音価を学ぶ。	p150	p78～85
		器楽実習	アルトリコーダー、ハンドベル他	教員が選曲	
	5	鑑賞	クラシック音楽の名作の聴き方を学ぶ。	教員が選曲	
	6	楽典（拍子）	様々な拍子の数え方と標記方法を学ぶ。		p68～73
		器楽実習	アルトリコーダー、ハンドベル他	教員が選曲	
	7	西洋音楽史①	バロック時代、古典派の音楽を学ぶ。	p128～133	p8～19
後 期	8	楽典（コードネーム）	和音とコードネームを学ぶ。	p156,157	p86～90
		器楽実習	アルトリコーダー、ハンドベル他	教員が選曲	
	9	西洋音楽史②	ロマン派、近現代の音楽を学ぶ。	p134～137	p20～37
	10	創作	拍子を理解して作曲する。		
		器楽実習	アルトリコーダー、ハンドベル他	教員が選曲	
	11	オペラ鑑賞	La traviata	p44～45	
12	世界の民族音楽	世界の民族音楽から異文化理解を深める。	p54～59		
	器楽実習	アルトリコーダー、ハンドベル他	教員が選曲		

レポート			
前／後	回	課題内容	締切日
前 半	1	日本の伝統音楽（雅楽）	5/8
		音名	
	2	写譜	
	3	日本歌曲「荒城の月」	
		音楽用語	
後 半	4	鑑賞	6/5
	5	西洋音楽史	
		作曲	
	6	アルトリコーダー運指	
		世界の民族音楽（アフリカ）	
		コードネーム	

2025年度

## 学習指導計画表

京都長尾谷高等学校

〔科目名：美術Ⅰ〕〔単位数：2単位〕〔使用教科書：高校生の美術1〕

〔使用副読本：なし〕

学期	授業回	項目	教科書		副読本
			内容	ページ	
前期	1	模写デッサン	鉛筆の表現。 グラデーションを描く。	132～135	
	2	模写デッサン	写真を見ながらスケッチブックに描き写す。 立方体を描く。	132～135	
期	3	模写デッサン	写真を見ながらスケッチブックに描き写す。 幾何形態を描く。	132～135	
	4	レタリング	文字のプロポーションを学ぶ。 骨格、エレメントなど	149	
後期	5	レタリング	和文字とアルファベットの違いを学ぶ。	149	
	6	レタリング	明朝体とゴシック体の違いを学ぶ。	149	
前期	7	色彩構成	色の3原色を使い、混色を学ぶ。 黄←→青、赤←→青、黄←→赤	152～154	
	8	色彩構成	2色以上の色を混ぜて混色と色彩調和を学ぶ。 色彩構成、平面構成	152～154	
期	9	色彩構成	2色以上の色を混ぜて混色と色彩調和を学ぶ。 色彩構成、平面構成	152～154	
	10	デザイン	マークやピクトグラム（絵文字）の役割を理解し、様々な情報を具体的な形に表現する。	76・77	
後期	11	デザイン	マークやピクトグラム（絵文字）の役割を理解し、様々な情報を具体的な形に表現する。	76・77	
	12	デザイン	マークやピクトグラム（絵文字）の役割を理解し、様々な情報を具体的な形に表現する。	76・77	

レポート			
前／後	回	課題内容	締切日
前半	1	デッサン基礎 「5段階のグレースケール」 陰影・中間色の表現	5/8
	2	レタリング 「永」明朝体 デザインの基礎	
	3	水彩 「屋内の風景」 水彩技法 パースの概念	
後半	4	デッサン 「立体感の表現」球体を描く タッチの概念 光源の意識	6/5
	5	ピクトグラム 「クラブ活動」 コンセプトを立てる 要素の引き算	
	6	鑑賞・美術史 絵画・彫刻・デザインの歴史 作品に対する言語表現	

2025年度

## 学習指導計画表

京都長尾谷高等学校

〔科目名：書道I〕〔単位数：2単位〕〔使用教科書：書道I（東京書籍）〕〔使用副読本：高校硬筆の練習（教育出版）〕

学期	授業回	項目	教科書		副読本
			内容	ページ	
前期	1	楷書の学習	欧阳詢の整然として隙がない楷書を臨書する。	p 16~33	適宜
	2	九成宮醴泉銘	楷書の特徴と唐の四大家について学ぶ。	p 22~23	
前期	3	行書の学習	行書の特徴を理解し、用筆法を学ぶ。	p 38~57	適宜
	4	風信帖	空海について学ぶ。 文字の配置に気を付けて、臨書する。	p 52~57	
前期	5	篆書の学習	篆書の特徴を理解し、藏锋などの用筆法を練習する。	p 66~67	適宜
	6	泰山刻石	均衡美と均整美を兼ね備えた、篆書の代表作を臨書する。	p 68~69	
前期	7	仮名の学習	仮名の成り立ちを学ぶ。 いろは歌	p 76~85	適宜
	8	蓬萊切	蓬萊切を臨書する。	p 86~87	
前期	9	漢字の書の創作	古典の臨書や鑑賞を通して身に付けた表現方法をもとに、手順に従って漢字の書の制作をする。	p 70~73	適宜
	10	創作	草稿を作り、練習して作品にまとめる。		
前期	11		自分の表現を目指して、制作の意図に応じて、工夫する。	p 106~123	適宜
	12	創作	これまでに学んだ名筆の表現を生かして、創作する。		

レポート			
前/後	回	課題内容	締切日
前半	1	「清泉」	5/8
	2	「風信雲書」	
後半	3	ペン字教本 原稿用紙の書き方を学ぶ	6/5
	4	「皇帝」	
後半	5	「おほぞらに むれたつ ～かな」	6/5
	6	漢字の成立と変遷 中国と日本の書家	